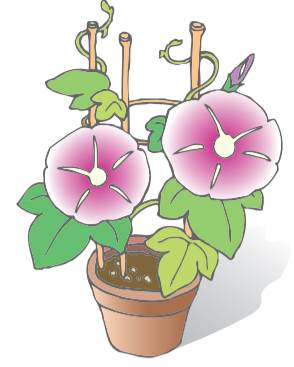


区長所信表明
(項目)

- 1 はじめに
- 2 子育て支援施策について
- 3 教育施策について
- 4 健康・福祉施策について
- 5 環境施策について
- 6 文化・観光及び産業施策について
- 7 まちづくり施策について
- 8 補正予算について
- 9 おわりに



代表質問

第2回定例会では本会議において、区長・教育長に対し、6月9日に各会派の代表による代表質問が、6月11日には各会派から6名の議員による一般質問が行われました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。

国際文化・観光都市について



たぐち はるよし
田口 治喜 (台東区議会自由民主党)

区政の現状認識と展望について

問 訪れた方に「この街に住みたい」と思っていたくためにも、活力ある街を目指し、スピードと躍動感が重要と思うが、2期目の舵取りを担う指揮官としての抱負と決意を伺う。イ所得格差と税収格差について、どう認識しているのか。ロ区民全体の所得レベルを含めた生活実感を引き上げるための方針と具体的な方策は何か。また、どのようにすれば所得の高い人を呼び寄せられるのかの議論も必要と思うが、どうか。イ「受益と負担」についてどう認識しているのか。ロ「受益と負担」が、それぞれの施策にどのように反映されるのか。

答 魅力的な施策の実施、スピードとコスト意識の向上、区民ニーズへの的確な対応等が大切です。暮らしてみたいと選ばれる台東区の創造に向け全力で区政に邁進します。イ憂慮せざるを得ない状況と認識しています。ロ区全体の活性化のため幅広い施策展開に取り組みます。補正予算に、台東区に暮らしてよかったと思える事業を計上しており、多くの方に選ばれる台東区の実現に向けた基礎になると考えます。イ各人が義務を果たしたうえで支え合うという考えに沿うものであると認識しています。ロ受益者負担の原則は、行政サービスを提供する方に対し、公平性・公正性を確保する観点から、サービス提供に必要なコストの一部を負担いただくという考えに基づいています。

問 フィルムコミッション、ステージコミッションについての考え方、ステージコミッションの今後の展開について伺う。谷中五重塔の再建についてイ地域の気運の盛り上がりやをどう評価しているか。ロ助成措置を都と協議すべきでは。ハ谷中五重塔基金の創設を検討すべきでは。国際浅草学について、区として積極的に携わることは、台東区の発展に重要な役割を果たすものと考えているが、決意と具体的な取り組みについて伺う。浅草地域まちづくり総合ビジョンを実現していくためには、ランドデザインを共有して協働することが重要である。人々が浅草に持つイメージや、訪れる人の「思いを満たす」という基本、すなわち顧客のニーズに的確に応えることが必要である。顧客ニーズや人々の思いについて、所見を伺う。観光センターの建替えについては、かつて浅草にあった凌雲閣を例に挙げて、自民党として提案しているところである。建替えに対する基本理念について伺う。

答 フィルムコミッションは、地域のイメージなどを底上げするものです。ステージコミッションは、演劇・芸能活動における稽古場等の支援を行ってきました。潜在する演劇・芸能活動の発掘と創造に努め、台東区の持つ独自性を活かした支援のあり方を検討します。イ素晴らしいことだと考えます。ロ都の関連する部局と協議します。ハ課題について検討します。積極的に取り組みます。実行委員会を設立し、記念講演会を考えています。浅草を訪れる人々は、豊かな歴史・文化・伝統を求めていると考えます。人々の想いと、顧客ニーズを大切にしまちづくりを進め、浅草地域まちづくり総合ビジョンの実現に向け区民の皆様と協働します。台東区全域の観光拠点施設として、観光機能の充実を図るとともに、浅草の歴史と伝統を考慮したランドマークとなるよう、整備を進めます。



あおやぎ まさゆき
青柳 雅之 (台東区議会区民クラブ)

区政運営について

問 本区の特徴を活かした歳入確保の考え方と具体策について、区長の所見を伺う。区長等の退職手当を廃止・縮小する方針の自治体が増えている。退職手当には「生活保障」的な意味合いもあると聞くが、区長等が退職後に外郭団体役員へ就任することは、この意味で重複するのではないかと。 **答** 平成17年度に収入確保対策検討委員会を設置し、収入確保のための様々な方策について検討し、具体策を実施して参りました。今後とも、あらゆる角度から、収入確保に努めて参ります。本区では、特別職等が職務の知識や経験を外郭団体の経営等に最大限生かすことを主な目的として、役員へ就任してきたところです。退職手当については、区政の状況や特別職報酬等審議会の意見などを尊重し、適宜判断して参ります。

台東区の観光について

問 外国人旅行者や団塊世代の旅行者の増加により、今後、観光産業は大きく伸びるとされている。本区においては、こうした機会を捉え、全区的に観光産業を飛躍させる必要があると考えるが、区長の所見を伺う。新東京タワー建設が具体化する中で、本区としては、どのように対応していくのか。区長の考えを伺う。 **答** 外国人旅行者や団塊世代の旅行者は増加傾向にあります。本区では、「台東区

観光ビジョン」に基づき、観光プロモーションや、観光案内板の整備など、台東区全域を対象とした様々な取り組みを行って参りました。今後とも、増加が見込まれる観光客の誘客を一層促進して参ります。さらに、それぞれの地域の特性を活かした旅行者への質の高いサービス提供に努めて参ります。このたび、「浅草地域まちづくり総合ビジョン」をご提言いただきました。その中では、新タワーとのアクセシビリティの向上、回遊性の強化や、舟運の整備などの事業が示されております。このたびの補正予算でこれらの経費を計上しております。今後とも、区民の皆様や関係機関と連携を図り、観光振興、地域の活性化の面から、新タワーの効果を十分引き出して参ります。

地球の温暖化について

問 G8サミット(主要国首脳会議)での議論や様々な国との調整の中で、地球温暖化対策には、まだまだ不安が尽きない。これらの問題に対する、自治体の果たすべき役割が非常に大きくなっている。本区としても、国内の環境1都市となる意気込みでこの問題に取り組んでいく必要があると思うが、どうか。 **答** 地球温暖化問題は喫緊の課題です。住民に最も身近な自治体として、地域を挙げてこの問題に取り組まなければなりません。そのため、環境と経済を両立させた事業活動への取り組みの普及・啓発を図っているところです。環境マネジメントシステムの運用などの率先行動をはじめ、環境配慮行動の支援、環境学習の展開など、様々な対策を推進しています。今後ともこれらの施策を複合的に進めていく中で区としての役割を積極的に果たし、持続可能な社会の構築に努めて参ります。